

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500011		
法人名	社会福祉法人 清心会		
事業所名	グループホーム 夢の郷		
所在地	岐阜県安八郡神戸町丈六道村西59		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町村受理日	平成29年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti.on.kouhyou.detai.1.2017.022.kani.tru&sl.gvovsOd=2192500011-00&Pr.efOd=21&Ver.sionOd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成29年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日吉神社の春祭り、施設内での夏祭り、文化祭・認知症カフェ、お寺カフェなど地域の行事などに毎年積極的に参加をするなど、地域の方々とのふれあいを大切にしている。毎年家族会を開催し、親子で作品作りを楽しんで頂く今年度は新聞ちぎり絵を共同ではがきを作成する予定です。また日頃ご利用者様が召し上がられている屋敷を一緒に召し上がって頂くなど、体験して頂き家族様が安心して頂けるよう心がけています。できた作品を文化祭に出展する予定です。昨年度より、介護相談員様や傾聴ボランティアの方などの訪問もあり、内外との交流を活発にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念を基にした事業所理念を実践しやすくする為に、行動指針として11項目を定めて、毎日のケアで意識つけて行動できるようにしている。お寺カフェ・認知症カフェや母体施設の喫茶店・他事業所の喫茶店等に頻繁に出かけ、住民と触れあう機会をもっている。家族との関わりも大切にして、毎年利用者と共に作品を作り文化祭に出展し、事業所の理解にもつなげている。役割を持って生活できるように、モップかけ・雑巾縫いや縫い物・洗濯物干しや畳み・食器洗い等を、利用者ができる能力を活かし個々を尊重した姿勢で臨んでいる。質の向上につなぐ法人の各種委員会と研修体制の仕組みがあり、認知症の理解を深める研修を受け、介護技術の評価制度により、前進できるよう努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、夜勤者との申し送り時に法人の理念とGHの介護理念を唱和し、浸透を図り実践に繋げている。	事業所理念を実践しやすくする為に行動指針として11項目を定めている。その行動指針の1項目を、その日に決めて申し送り時に唱和し、気にかけて行動するようにしている。それらをミーティングで確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に利用者様との協同作品なども昨年より出展しており、見学もしている。認知症カフェ・お寺カフェなどにも参加し、地域の方々との交流を深めている。	併設のデイサービスにボランティアが来訪時は、一緒に参加している。夏祭りには、チラシを利用者と一緒に配り、住民と触れあい交流している。神社の祭りや初詣に出かけているが、日常的なつながりが少ない。	デイサービスを介したつながり以外に、事業所主体となった地域との交流機会の工夫が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内にて認知症の研修が年数回あり、勉強会を開催し、ご家族様からの相談があった場合、適切なアドバイスをさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での取り組み、事故報告・ヒヤリハット、行事等報告をさせて頂き、適切なアドバイスも頂いている。地域での行事などの参加も参考にしている。	会議案内は訪問し、直接、出席のお願いをしている。地域行事の情報を聞き参加したり、独居の方の相談を受けたりしている。災害時の公民館利用や住民の受け入れ等を話し合った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターからの参加もあり、介護保険法など専門的な事での疑問点など尋ねたり、より良いケアサービスの提供に繋げ、協力関係の構築を図っている。	書類提出や会議案内を手渡しする為に、できるだけ町に出向き、空き情報や事業所の実情を伝えている。町主催の会議に出席し、多職種とも連携し情報交換や困り事の相談等をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を年1回は開催しており、全員に周知徹底している。階段なども開けるとチャイムが鳴るなど事故防止に繋がっています。	身体拘束についての勉強会を継続的に行い、身体拘束しないためのチェック表で確認し、拘束しないケアに努めている。ドアを開けるとすぐ階段がある為、サムターン式の鍵とチャイムをつけている。外に出ようとする人には、階下に降りたり外に一緒に出たりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を開催、勉強会を開くなど、身体的、言語的等、自覚がないままに虐待となっていることもあり、気をつけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県で開催される勉強会に代表が参加し、必要があれば皆で話し合いが出来るように準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が契約を行い、重要な項目は十分な説明を行い、利用者・家族にも不安なことは理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会において、管理者・ケアマネなどと家族様との懇親会の中で、和やかな雰囲気のもとで意見交換を行い、今後の運営に反映させるようにしている。	家族の面会時に、意見が言いやすいように利用者の様子を伝えてから希望を聞いている。家族会で話し合い、家族アンケートもを行い、意見や要望を聞いている。文化祭出展の作品作りに家族が意欲的に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、行事やケア業務に関する意見交換をおこなっている。福利厚生に関しても提案を聞く機会があり、反映に繋げている。	法人が実施する自己評価と改善提案書にて意見を言う機会がある。ミーティングでの話し合いや業務内でも意見が言いやすい雰囲気になっている。食材を業者納入から職員が買い出しに変更し、残菜減少につなげた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価を実施し、個々の力量・勤務状況などの評価を行い、給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のスキルアップ研修において、力量に合った研修を行うとともに、希望する研修の項目などのアンケートに基づいて研修内容を決めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修に参加。地域のドクター、ケアマネ、理学・作業療法士・介護士など様々な職種の方々との話し合いなどする機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初面談時に利用者様がどのような暮らしを望まれているかお聞きしてサービス計画書を作成して関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面談時にご家族様から施設に対してどのような生活を希望されているかお聞きして、可能な限りお応えできるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」備えて契約時に施設内で対応できることをお話しさせていただき理解を求めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに出来ない事をカバーしながら関係を築いていただける様支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様面会時に本人様の現在の状況を報告させて頂いています。同時に、ご家族様の思い、要望などお聞きしまして絆を深めながら支援します。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方とゆっくりと談笑されるよう環境を提供させて頂いています。地域の行事にも積極的に参加して馴染みの方と途切れない様に支援しています。	デイサービスから事業所に入居した人もあり、お互いが行き来できるようにしている。お寺カフェや認知症カフェに行き、馴染みの人と交流がある。親族が来所時は、ゆっくり過ごしてもらい、電話をかける支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が会話しやすい様に席に配慮しています。会話の内容によっては職員も加わって互いに関わりが持てるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、在宅生活を希望される際はいつでも相談できるよう窓口を用意しています。他の施設に入居される場合は介護サマリーなど情報を提供しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画書作成時にアセスメントしながら本人様の希望を聞きとっています。困難時にはご家族様にも意向をお尋ねしています。	利用者目線と目線を合わせ、思いを聞いている。飲み物はメニュー表を作り、指さしや顔きから把握している。困難な人には、家族に聞いたり生活歴・表情・仕草等から思いを汲み取ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の暮らしをお聞きして出来る限り今までの生活が継続できるように計画書を作成して支援させて頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様が施設内でどのように過ごすことができた心地よいのか、また趣味などが生かすことが出来るか把握して支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの利用者様に担当者を決めてモニタリングを依頼しています。サービス内容の変更がある場合はご家族様の思いも取り入れながら介護計画書の見直しをしています。	利用者や家族の意見を事前に聞き、かかりつけ医や協力医の意見も参考に介護計画を作成している。担当がモニタリングし、全職員でカンファレンスを行い、情報を共有している。3ヶ月毎又は必要時に見直し、申し送りして伝達している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に添ってサービスを提供し記録しています。モニタリングの担当者を決めて気づいた事を書き残したりミーティングなどで情報交換などして必要な時は介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	独居の方で、周囲から支援を受けられない方には買い物、受診、手続き等柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、地域で開催されている「認知症カフェ」に参加したり文化祭に出品、見学したり、神社祭を見物したり楽しく暮らせるよう積極的に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の確認しています。定期受診にはご家族様同行にて受診していただいています。変化が見られた場合は主治医に指示を仰いだりしています。	入居時に協力医に変わる人もいるが、かかりつけ医を継続する人は家族が通院対応をしている。受診時は、口頭か書面にて様子を伝え受診後に報告を受けている。家族対応が難しい時は、職員が同行受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化が見られた場合は、併設されているデイサービスの看護師に相談し、適切な助言を受けながら受診、看護の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリー、入院に至るまでの症状など時系列に記録して情報提供しています。入院中にも早期退院に向けて相談員様と連携を取りながら施設での対応策を担当者会議を開催しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取りの体制を整えておらず、重度化した場合はグループ本体の特養への入居を優先的に勧め、契約時に十分な説明をしており理解をいただいている。	入居時に重度化した場合の説明や看取り体制がない事を伝えている。異変時に備え医療的ケアの勉強会を行っている。家族の希望も聞きながら、受け入れ先の情報提供し、栄養剤の補給や食事形態・水分にトロミ剤使用等で、できるまでの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時においては、マニュアルがあり、また救命救急の講習にも全員が参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	7月、12月と年2回の避難訓練を実施しており、12月には区長・地域の消防団員様2～3名の参加を得て助言を頂くなど協力を頂いている。	通報・初期消火訓練・避難訓練を、住民の協力も得て行い、時間計測し消防団員から助言を得ている。水や食料等を備蓄し、リストを作り計画的に管理している。夜間想定として出勤職員全員での訓練を行っている。	夜間帯は、職員一人での対応となる実態を踏まえ、専門機関の助言を得て全職員で話し合い、実情に見合った訓練が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室するときには必ずノックします。入浴中、トイレ使用中はむやみに中には入らないしています。会話は同じ目線で話しかけるようにしています。	人生の先輩である事を忘れず、傷つく声かけや言葉遣いに注意している。その人の目線に合わせて話をするように心がけ、寄り添う気持ちで個々に合わせて接している。行事写真を使用時は、家族からも同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ボランティア活動に参加したり、外出など本人様自己決定をしていただいています。決定が困難な利用者様には事前にご家族様にお伺いしておきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パズルをしたい方、トランプが得意な方、塗り絵の好きな方それぞれの分野で楽しんでいただけるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節季節に応じた服装を着て頂くよう心がけています。女性の方が外出されるときはお化粧品をして頂く事もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に嫌いな食べ物を聞き取りしていません。メニューに嫌いなものがあれば代替え食を提供しています。利用者様が手分けして盛り付けしています。嚥下状況のよくない方には刻み・トロミ食を提供しています。	野菜切り・盛り付け・配膳等の出来ることを職員と一緒にしている。メニュー表を書く人や読み上げる人もいて、音楽を流し職員も一緒に会話しながら食事をしている。フードコートでの外食や行事食・おやつ作り等もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎食記録。水分量も脱水状態にならない様1000～1200CC飲用して頂いています。メニューも栄養士の指示のもとに調理されてます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをして行っています。口臭の気になる人には就寝前に洗口液ですすいで頂いています。また、義歯の方は義歯洗浄液に浸けて清潔を保っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄パターンが記録されていますので、排泄間隔を確認しながら声掛けをしてトイレに案内しています。夜間は声掛けの必要な方には安眠妨害にならない様に適時声掛けしています。	排泄記録を基に利用者に合わせて、トイレ排泄できるように声かけや誘導をして、落ち着きのない様子の人には、さりげなく誘導している。トイレ入口の文字を大きく表示して、自立した排泄ができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師などと相談して内服薬を調整したり、水分量をチェックしたり、牛乳を提供したりして便秘予防策をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お湯の中には入浴剤で季節を感じて頂いています。決まった曜日に外出される方には入浴日を変えています。拒否のある方には声掛けに工夫をして入浴の支援をしています。	入浴剤やシャンプーは、利用者の好みで希望のものを使用している。希望の湯温でゆっくり入り、職員と話を楽しむ時間にもしている。嫌がる人には、声かけを工夫したり、入浴日を変えたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の思いに添って自由に休んで頂いています。季節に応じて温度調整して環境づくりをして支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方箋が介護記録の最後のページに綴じてあります。職員全員が周知しています。服薬時には必ず声を出して名前を確認します。異変が見られた場合は直ぐに医師・家族に報告します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前の暮らし方を尋ねて得意とすることを生かしながら役割を決めて役に立っていることを認識して頂けるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と同行して買い物に出かけたり、季節に合わせて天候の良い日にはドライブに出かけたり、家族様了解のもと、喫茶店、ランチなど出かけたりしています。	新聞広告を見て行きたいと言う人には、希望を叶えている。おやつや嗜好品の買い物・お寺カフェ・認知症カフェ・温泉・花見・季節行事・行楽地等への外出を日常的に行っている。家族の協力を得て自宅に行ったり、外食に行ったりする人もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にご家族様に理解いただいた利用者様には、少額の現金を自身で管理して頂き、スーパーなどに出掛け、買い物支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される利用者様には職員が取り次いだり、郵便ポストに投函したりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節ごとに手作り作品を展示したりBGMを流したりゆったりと過ごせるよう工夫をしています。希望により時には懐かしい童謡や演歌を流すこともあります。	リビングに季節の花を生け、利用者が作成した季節毎の作品を壁面に飾っている。利用者同士が会話したり雑誌や新聞を読んだりできるように、ソファやイスの配置を工夫している。室温や湿度にも注意し、冬季は加湿器を設置し換気にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・サンルームには自由に腰かけられるソファが設置してあります。気の合った利用者同士が自由に談笑したり、お茶を飲んだりできるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご主人の遺影、数珠等持参されて毎日、お参りされる方もいらっしゃいます。また、お孫様の写真、施設内で撮影した家族写真など居室内に貼ったりして工夫しています。	使い慣れた毛布・TVや時計等を持参してもらっている。家族写真・行事写真や作品等を飾り自分らしい居室にしている。遺影にお供えしお経を読んだり、縫い物や編み物をしたりして、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除の出来る利用者様にはハンドモップを置いたりしてあります。自身の居室ドアには大きく名前を書いて表札にしています。字の読みづらい利用者様には目印になる物を飾っています。		